



TITLE:

國境に就いて(下)

AUTHOR(S):

小川, [琢]治

CITATION:

小川, [琢]治. 國境に就いて(下). 地球 1928, 10(2): 83-90

ISSUE DATE:

1928-08-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183478>

RIGHT:

地球 第十卷第二號

昭和三年八月一日

國境に就いて (下)

小川 琢治

四

前に述べた各種の境界線と全く趣を異にするものは天文(天測)的境界である。此の方法は一四九四年羅馬法王アレキサンダー第六世が葡西兩國の探檢により新領土を獲得する活動範圍を劃定する爲めに大西洋上西經約四六度の子午線に沿ひ引いた所謂定界線 Demarcation Line に濫觴し、海上探檢の場合に適合した限界の方法であつた。然るに未開の土地には此の方法が陸上境界線の劃定にも應用され、一六六三年カロライナ州の北界を劃するに北緯三六度三の分緯線を用ゐて以來北米植民地に天文的境界が屢應用された。その最も大規模なるはカナダと合衆國との間の北緯四九度緯線の約二萬軒と同じくアラスカとの間の西經一四一度子午線の約一萬軒である。

日露戰爭の結果として樺太島の大部分が再び我が版圖に復するに當り、北緯五〇度線をその境界と定めたので、日本の國境との天文的限界線が出來た。洩れ聞く所では此の北緯五〇度線なるものは露國慣用の地心緯度に従つたといふことであるが、果して然りとせば地理緯度五〇度との差約一

一分だけ北に偏するから、約二〇分だけ地理緯度で定めたよりも多く我が領土に入つた譯である。此の方法は人煙の稀薄な未開民族の居住地方で行はれるから、境界の決定による土地所有權の分割される不都合は滅多に起らぬが、決定當時未知の富源が発見された場合には嚴密なる劃定の必要が起る。合衆國が露國から譲り受けたアラス領ユコン河流域に豊富なる砂金鑛床の發見され、その中心たるクロンダイクが上流のカナダ領に在つたので、兩國間の境界劃定委員會が一八九九年に設けられて精密なる子午線的位置を地上に設定することゝなつた。

此の方法は地圖上には一直線となつて現はれるから一目瞭然たる分界線と見えるが、この線の通過する場處を熟視すれば屈曲蛇行する分水界及び谷道を幾回でも横斷するもので、その土地が發達して線の兩側に都邑聚落の簇生して兩國民の接觸する場合には國境といふ分界の意義の存續し難き不自然極まるものである。

主として地圖上に現はれる所に就いて進め來つた國境に關する考察に尙ほ附加へねばならぬのはその形狀である。茲に最後に擧げた天文的境界の外は何れも屈曲し、その仕方から國境の肢節 Articulation に多少の差異が起る。海岸線が國境を成す場合にはこの線を隔てゝ共存する隣國がないから屈曲の如何は直接問題とならぬが、陸上に於ける境界線の屈曲は兩國間の接觸の程度に等差を生じ、相反目する兩民族が此の線の屈曲した處に居住すれば葛藤が絶えず起るべく、又た一方に統治權の不十分にして完全なる警察制度により匪徒を取締ることの出來ぬ事情などがあれば、國境の他方住民の蒙る迷惑は頗る大である。鴨綠江上流の滿洲馬賊の跳梁により朝鮮北部住民の脅威せられ

つゝある状態はその一例で、國境を越えて討伐隊を差遣する様な異例の軍事行動の必要すら起り、若し現在の如き状態が繼續するならば、滿鮮の國境を江北に移して溪谷の右岸をも我が領土とせぬまでも、我が警備隊を對岸の要處に配置して朝鮮總督府の手で匪徒を取締り得る途を開かねばならぬことゝなる筈である。

五

國境は國家の成立と切り離し難き機關であつて政治地理學上の國家觀に第一に考察せねばならぬことは以上述べた所で略ぼ明かとなつた。而して之に伴ひその兩側の住民の狀態に適應せぬ事情が発生すれば必ず移動を免れ難いことも亦た明かで、今最後に舉げた鴨綠江上流の實例の如きは如何なる結果となるかも知れぬのである。之を要するに山嶽河流そのものは位置は安定であつても、之によつて劃した限界に必しも永久性がある譯でなく、或る國境の位置は兩側の國家が共に能力に於いて同一の水準に在る間は固定すべきも、兩者に差異が起り一方が著しく高くなれば他方を壓迫してその領土内に移動すべきものである。

歐洲に於ける國境線の變化はその實例として最も顯著で、拉丁族がアルプスを越えて西方及び北方に進出した當時の國境は、前に述べた羅馬人の築いた長城の發掘により位置が明かとなつた。然るに當時の蕃族部落が地中海文化の傳播により次第に大きな國家組織を構成するに及び、中世の間に全く一變して北方諸民族の國家が南方に向ひ壓迫を加へることゝなり、その諸民族の勢力消長の結果が近世歐洲の大小國家となつて犬牙錯雜した現在の政治區劃を生じた。

その中佛獨塊伊四國の境界はシャルルマニユの帝國が一八四三年のブエルゲン條約で三分された以後に幾たびも分合した爲めに變化を重ね、獨塊兩國は我が戰國時代の大小名の領土の如く瓜分しその間に行はれた婚姻から王公家の血族關係が成立し或る國の主權者の他國を相續するにより領土を附加へた場合もある。その最も錯雜したのは一九一七年にテューリンゲン共和國となつたサックス・ワイマル・アイゼナツハ、サックス・マイニンゲン等の七公侯國を含む地區で、その相互に喰ひ込み合つた境界線は箇々に村落に所屬する林野の境界の聚合によつて生じたのである。

此等の大小の國々に分裂したシャルルマニユの領土中羅馬人の多く入り込んだゴール地方が今拉丁語系の佛國となつて土語の續いた獨逸と對立し、ライン左岸とローヌ河谷一帶のロタルの領土地がその中間に介在し、東西兩強の勢力の消長に従ひ國境の移動が屢次起り、アルサス、ロルレーヌの兩州が最近五十年間に一旦獨逸に略取されてブエルサイユ會議の決定により再び佛國に取り戻される如き變化を見た。

六

此の如き國境の一進一退する形勢を人文地理學上から觀て、之を數量的に解釋せんと試みたのはズーバン氏(政治地理學綱要、第六九、七八頁)である。同氏は歐洲諸國の國境全長を一〇〇として、その海岸線の長さと陸内國境の長さとの百分率を求め、陸界線の長さにて海岸線の長さを割つた數字を瀕海性 *Maritimity* (*Marinitat*) と呼んだ。此の方法にて計算すれば

	海界線	陸界線	瀕海性		海界線	陸界線	瀕海性
英國	一〇〇	—	∞	伊太利	六六	三四	一・九
希臘(一八八二年)	九三	七	一三・四	露國(歐洲)	六五	三五	一・八
丁抹	九二	八	一一・四	佛國	六三	三七	一・七
諾威	八九	一一	八・一	和蘭	五一	四九	一・〇
瑞典	七八	二二	三・五	葡萄牙	五一	四九	一・〇
西班牙	六九	三一	二・二				

の十一國と

獨逸	三六	六四	〇・五	白耳義	七	九三	〇・七
埃匈	二二	七八	〇・三	瑞士	—	一〇〇	〇
羅馬尼(一八八二年)	九	九一	〇・一				

の五國との二群に區分され、前者は海界が陸界よりも長く後者の主として陸界に圍まれるのと著しい對照を呈してゐると考へた。

ゾーバン氏は英國の如く陸界零の場合は隣國の壓迫も零となるとして、一國內の人口で隣接地の人口を除した地理的壓力商數 Geographische Druckquotient なる比率で此の關係を示した。その示した。大戰前の諸強國及び歐洲中小國の地理的壓力商數なるものは左の如し。

英國	〇	佛國	三・三
合衆國	〇・二	獨逸	三・八
伊太利	二・七	埃匈	五・七
露國	三・一	日本	七・五

國境に就いて

五

地球

第十卷

第二號

六

西	班	牙	二・二
諸	威	二・一	
葡	牙	三・七	
和	蘭	一・七	
白	耳	義	一四・八

瑞	丁	瑞	三〇・八
羅	馬	典	二三・四
士	尼	抹	三〇・八
瑞			五〇・九

ブーバン氏は壓力商數を以て政治的位置の精密な表現であるとし、嶋國半嶋國邊緣國中間國陸内國といふ順序を成すと考へた。但し此の外に海上から加はる壓力を考慮に入れねばならぬことが明かで和蘭國の屬領が英支日の壓力を感じることに注意し、ブーベン氏はこの壓力は距離の増加に従ひ減少し、或る距離に至つて壓力と反對壓力とが等しくなると注意はしてゐる。

壓力商數なる表現法は面白い創意ではあるが、その内容に立ち入つて考察すれば、是により眞の國際の勢力關係を正確に示してはゐないことは直ちに分る。マウル氏は（政治地理學第四五二、五頁）政治的隣接は地理的に明確に定め得ない概念であるから之を實際に適用し難いとし、海上壓力をも見積らねばならぬが之を決定するに困難であるとし、ブーバン氏の示した瑞典諾威兩國の三八對二・四といふ根本的差異が果して兩國の政治的位置を正しく示すかを疑ひ、壓力商數なるものは寧ろ純然たる人口地理學的 *Bevölkerungsgeographische* の意義はあるも政治地理學的意義はないと認めた。

我々をして評せしむればマウル氏の批評も亦た精透を缺くものである。兩國間の境界線に雙方から加はる壓力は人口の絶對數によつてよりも、兩國の人口密度（面積を以つて人口を除した商）

の比率を取つて考ふべきであるのに、面積の關係を無視したのは我々の了解に苦む所で、尙はその上の國境の長さをも考慮に入れねばならぬと信ずる。此等を考慮して壓力係數 Druckkoeffizient を計算するに、人口密度を D とし國境の長さを L とすれば壓力係數 P は

$$P = \frac{D}{L}$$

となり、此の數量は箇々の國の國外に向ひ國境に加はる壓力を示し、若し全部に互り接觸する場合には兩國間の壓力商數 Q は

$$Q = \frac{D_1}{L_1} : \frac{D_2}{L_2}$$

といふ關係となるが、通例兩國の境界線の一部分 l だけで接觸する譯であるから、 l_1, l_2 を以て之を示せば

$$Q = \frac{D_1 l_1}{L_1} : \frac{D_2 l_2}{L_2}$$

といふ關係で、 l_1 と l_2 が等しから

$$Q = \frac{D_1 L_2}{D_2 L_1} \quad \text{となる。}$$

此の方程式は簡単に二國のみの接觸する西葡兩國の場合にはそのまま適用され葡西兩國の一九二〇年一方籽人口密度六三・四及四三・八に葡國海陸國境一、六五〇籽中の八九〇籽と西國の三、九六〇籽中の八九〇籽とを取り之を計算すれば

$$Q = \frac{438 \times 1650}{634 \times 3960} = 0.29$$

となり、その逆数は三・三九となり、前者は葡國に及ぼす西國の壓力後者はその西國に及ぼす壓力の指數である。

或る一國の國境が數國に接する場合にはその各箇どの間の D/L の關係が生じて來るから複雑となるが、之を各別に計算せねば正當に見積ることが出來ぬ。

我々の茲に舉げた所は平和狀態に在る兩國間の壓力關係を示すもの即ち靜壓商數であつて、國境に接する地帯に於ける壓力を考察するには隣接地帯のみの人口に密度を取らねば眞の狀態を理會し難いのは勿論である。此の場合にはズーバン氏の人口數を取る代りに兩側の平均密度を取り、その商を以て示せばよい。之と同一の關係は國境内に於ける人口移動の場合にも行はれるもので、氣壓の高低により生ずる氣流に比較し得べく、之を地理的靜壓商數と呼んで適當と信ずる。

此の如く詮じ來れば國境の移動といふ政治地理學的現象は靜壓商數のある限界に達して動的應力となる場合に起るといひ得べく、靜壓の集積に従ひ終に起らざるを得ないのである。故に國別及び地方別の人口密度圖を基礎として人口移動と共に此の問題を考察すれば移動の方向が直に看取される譯である。

以上は政治區劃圖を披いて國家列時の形勢を大觀するに當り直ちに注意する區劃そのものに關しての考察に止り、國境の機能、交通及び防備上の關係等には全く觸れ得なんだ。此等は別の機會に稿を改めて述べる。